

編集手帳

江戸時代は「地酒」の意味が少し違った。当時は上方の酒が抜群に上等等とされ、江戸周辺でできた一段劣るものをそう呼んだという◆上方の酒は樽廻船で運ばれた。海路の数日の間に、新しい杉樽の香りが染みこむ。旅の途中には富士山の絶景もある。だからおいしくなるというので、「富士見酒」と特別な名がついた◆だが困ったことも生じた。上方の人たちが飲めないわけである。そこで江戸に着いた樽のうち一つか二つを送り返したそうで、これが「戻り富士の酒」——という歴史学

者の北原進さんの解説を、宝島社の新書『江戸の家計簿』で読んだ◆青空にそびえる富士山の景色を頭に浮かべない人はないだろう。この山の景勝地、静岡県平野部は本州では有数の雪の降らない地域に数えられる。気象庁の今月の観測記録によると、同じ東海地方の名古屋市で雪が降り積もった24日、浜松、静岡市は晴れていた。ふしぎである◆仕事納めを経れば帰省ラッシュが始まる。お酒の好きな方は東海道新幹線の車窓から、富士見酒、あるいは戻り富士の酒が楽しめるそうだ。年末年始、太平洋側はよく晴れるらしい。